

「刀根早生柿」発祥の地を守り続ける

～ 萱生^{かよう}地域推進協議会～（天理市）

令和8年7月

「まほろば」のふるさとを守る全国からの応援団

天理市萱生町は、奈良盆地の東端の丘陵地に位置し、竜王山の扇状地帯で、大和の古道の「山の辺の道」の街道上にあります。

また日本の渋柿を代表する刀根早生柿の発祥の地ですが、生産者の高齢化と担い手不足のため、年々人手の確保が難しくなっています。

萱生地域推進協議会は、少子・高齢化により荒廃する地域や農地を守ろうと2014年に4名で発足しました。

2022年からは柿の収穫期の人手不足解消のため、天理市のサポートを受け、人材マッチングサービス会社（おてつたび）を通じて、人材の募集・地域の魅力発信を行っています。



農家の皆さんと参加者の皆さん

収穫作業はワーケーションにつながる貴重な体験へ

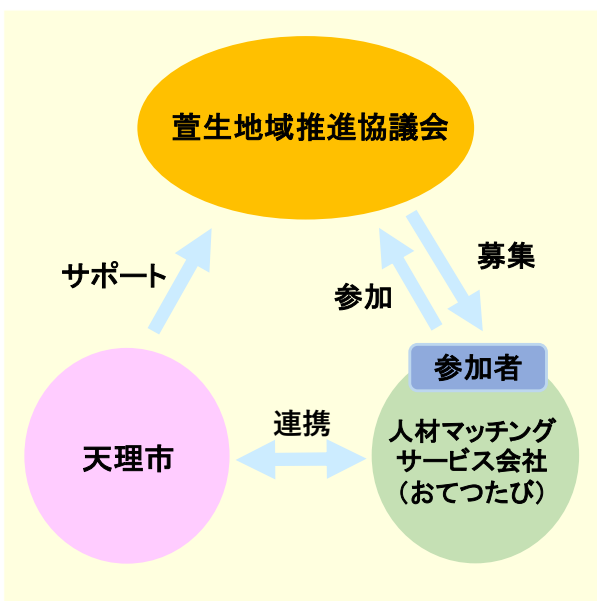
毎年、10月初旬から11月中旬にかけて複数の日程にわけて募集を掲載し、北は青森、南は沖縄から20名程度の方が参加されています。

滞在期間は平均2週間で、休日には「山の辺の道」や「石上神宮」など周辺の観光も楽しんでいます。

作業は収穫のほか、雨天時は選果、袋詰め、発送作業などですが、当初は3日間や1週間という短期間の日程で募集していたため、作業に慣れる頃には期間満了となってしまう、効率が良くありませんでした。

また全国各地の文化・慣習が異なる参加者に対し、作業内容をどのように伝えれば良いか、どうすればスムーズに作業してもらえるか試行錯誤を続けた結果、今ではリピーターも増え、萱生地区のファンは着実に増えています。

リピーター参加者は作業だけでなく初参加者のサポート等でも、頼りになる存在となっています。



農業のみならず、地域全体の活性化を目指す

協議会では、萱生町内の歴史ある「山の辺の道」や「環濠」などの草刈りやごみ拾いを行い、地域の環境保全にも取り組んでいます。

協議会の会員は、現在では40名以上となりました。

獣害や近年の異常気象など、農業をとりまく状況は厳しくなっていますが、刀根早生柿発祥の地「萱生」を守るため、地域の活性化を目指し、環境を守り、農業・農村を未来につなぐ活動を続けていきます。



農園での作業